

主に市民が行う一次救命処置

新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置

1 基本的な考え方

- 胸骨圧迫のみの場合を含め、心肺蘇生はエアロゾル（ウィルスなどを含む微粒子が浮遊した空気）を発生させる可能性があるため、新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応する。
 - 成人の心停止に対しては、人工呼吸を行わずに胸骨圧迫と AED による電気ショックを実施する。
 - 子どもの心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。
- ※ 子どもの心停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が高い。

2 新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置（BLS）の手順

安全の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がマスクを正しく着用できていることを確認する。 ・人数に余裕がある場合、通報や救命処置を行わない人は、窓を開けるなど部屋の換気を行ったり、多人数で密集しないように配慮する。
反応の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・顔をあまり近づけすぎないようにして、傷病者の肩を優しくたたきながら大声で呼びかける。
119 番通報 AED の要請	<ul style="list-style-type: none"> ・非流行期と同様に対応する。 <p>※AED 使用によるエアロゾル発生に伴う感染のリスクは高くない。</p>
呼吸の観察	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸を確認する際に、顔をあまり近づけないようにする。
胸骨圧迫	<ul style="list-style-type: none"> ・傷病者がマスクをしていれば、外さずそのままにして胸骨圧迫を開始する。 ・傷病者がマスクをしていなければ、胸骨圧迫を開始する前に、マスクやハンカチ、タオル、衣服などで傷病者の鼻と口を覆う。
人工呼吸	<ul style="list-style-type: none"> ・成人口には、人工呼吸は行わず胸骨圧迫だけを継続する。 ・小児に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。
AED の使用	<ul style="list-style-type: none"> ・非流行期と同様に対応する。
救急隊への 引き継ぎ後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・傷病者を救急隊に引き継いだ後は、すみやかに石鹼と流水で手と顔を洗う。 ・手を洗うか消毒するまでは、不用意に首から上や周囲を触らない。 ・傷病者に使用したマスクやハンカチは、直接触れないようにして廃棄する。

(参考)

主に市民が行う新型コロナウイルス感染症流行期の一次救命処置の手順

